

かんがえよう やっていいこと わるいこと

～おみせのなかで～

(低学年用)

作：神奈川県警察本部少年育成課 小島久美子

絵：神奈川県警察本部少年育成課 平野洋子

【表紙】

演出ノート

子ども達に語りかける。

今日は、やって良いこと、悪いこと。 について皆さんと一緒に、
お勉強していきましょー。

それでは、紙芝居のお話を聞いて下さい。

途中で、私が、皆さんに、いろいろな質問します。

皆さんは、お話を聞きながらどうすれば良いか考え、元気に手を
上げて答えて下さい。

それでは、「考えよう。やって良いこと、悪いこと。お店の中で」の始まり始まり。



【場面】

のび男君とすね太君は、同じクラスで仲の良い友達です。

休み時間、二人は、新発売になった「ドデカチョコ」のことを話しています。

すね太 「ねえ、のび男君。新発売になったドデカチョコ、すつ

「く、おいしいよ。」

のび男 「あっ、あれね。この前、食べたけど、おいしいよね。」

のび男君が答えると、すね太君は、

すね太 「今日さあ、学校が終わったら、一緒にコンビニに買いに行かない？」

と誘いました。

のび男 「うーん。でも、今、お小遣い、あんまり持ってないんだ。」

のび男君は、迷っていましたが、すね太君は

すね太 「そのときは、二人で一つ買って、分けて食べようよ。」

と、のび男君を無理やり誘いました。

こうして、学校が終わった後、二人は一緒にコンビニへ行く約束をしたのです。



演出ノート

・ナレーションはゆっくり

・元気に明るく

・迷った様子で

・少し強い口調で

問を置く。

子ども達に語りかける。

拳手を求める。

拳手を求める。

それでは、ここで、皆さんに質問します。

お友達とお金を出し合って物を買うことは、良いことでしょうか。悪いことでしょうか。

・ 良いと思う人。

・ 悪いことだと思う人。

お友達とお金を出し合って、物を買つと「誰が、多くお金を出した。」とか「分けたとき、どっちが多かった。」などと、後からケンカになることがあります。

また、ペンや本など、分けられない物だと、「誰が持っているか。」などの問題が起きてしまいます。

だから、お友達とお金を出し合って、物を買うことは、やめましょう。

では、お話の続きを見てみましょう。

【場面②】

二人は、学校が終わった後、コンビニへ行きました。新発売のドデカチョコは、棚に沢山並んでいます。値段は五十円でした。

ところが、のび男君の持っていたお金は三〇円。すね太君は、昨日も買っていたので、十円しか持っています。

のび男君は、がっかりして言いました。

のび男 「あーあ。今日は、買えないや。仕方ないね。」
すね太 でも、すね太君は、

すね太 「僕、どうしても、食べたいよ。のび男君もそうだろう。」
と、諦め切れないように言いました。

のび男 「うん。せっかく、来たのに、買えなくてがっかりだよ。」
のび男君も、残念そうに言いました。



演出ノート

・ナレーションはゆっくり

・がっかりした様子で

・わがままな感じで

・同調するように

・問を置く。

・子ども達に語りかける。

◎ ここで、皆さんに質問します。

お菓子を買いたいのですが、お金が足りません。

こういうときは、どうすれば良いでしょうか。

答えてくれる人は手を上げて下さい。

(二〜三人の子どもから答えを聞く。手があがらないときは例を読む。)

例 ・ 我慢する。

・ お小遣いが貯まるまで、待つ。

・ おうちの人に頼んで、買ってもらう。

◎ いろいろな方法がありますね。

では、のび男君とすね太君は、どうしたのでしょうか。お話の続きを見てみましょう。

のび男君が「買えなくてがっかりだよ。」と言ったときです。

・ナレーションはゆっくり

すね太君が言いました。

すね太 「のび男君。こんなに、沢山、置いてあるんだから、

一個や二個、なくなっただって、分らないよ。

ねえ、今なら誰も見ていないよ。盗っちゃおうよ。」

すね太君は、万引きしようと誘ってきたのです。

のび男 「えっ。」

のび男君は、万引きなど、考えたこともなかったので、驚いてしまいました。

でも、すね太君は

すね太 「大丈夫だよ。平気、平気。やるうよ。」

と強引です。のび男君は、怖くなり

のび男 「でも、見つかったら、大変なことになっちゃうよ。」

と言いました。

のび男君は、心の中で、やらない方が良いと思いました。

でも、「すね太君の誘いを断るのは悪いなあ。」と思ってしまううちに、すね太君の言

うとおり、「一個くらいなら盗っても平気かなあ。」という気持ちになってきました。

すね太君は、いつまでも迷っているのび男君に、言いました。

すね太 「なんだよ。のび男君は、万引き、できないの。弱虫だなあ。」

◎ 「万引き」というのは、お店の物をお金を払わず、盗ってしまうことで、ドロボウ
することです。

() ところで、文字画面 まんびき ドロボウ せつこつ はんざい をボードに貼る。(

ドロボウのことを難しい言葉で窃盗と言い、窃盗は警察に捕まる犯罪です。

◎ それでは、皆さんに質問します。のび男君のように、友達に「万引きをしよう。」

と誘われたときは、どうしたら良いでしょうか。

答えてくれる人は、手を上げて下さい。

() 二〜三人の子どもから答えを聞く。手があがらないときは例を読む。(

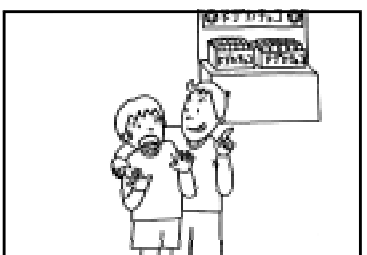
例 ・ 「嫌だ。」とはっきり断る。

・ すね太君に「ダメ」と言い、止める。

・ 家に帰る。

◎ いろいろな方法がありますね。

それでは、のび男君は、すね太君に誘われて、どうしたのか見てみましょう。



・ ナレーションはゆっくり
小さな声で

・ 驚いて

・ 無理強いする感じで

・ 嫌がる様子で

・ 意地悪く
問を置く。
子ども達に語りかける。

【場面④】

店長 「こちら。なにやっているんだ。万引きしたな。」

のび男君とすね太君は、万引きをしたのです。そして、店長さんに捕まってしまいました。

のび男君が言いました。

のび男 「あっ。じっ、ごめんなさい。」

すね太君が、平気って言ったから、やったんです。許して下さい。」

すね太君が言いました。

すね太 「ごめんなさい。もう、二度とやりません。」

だから、お母さんには言わないで下さい。」

店長は、二人を睨みつけながら言いました。

店長 「何を言っているんだ。」

誰に誘われようが、万引きをすれば、それはドロボウだ。

万引きはドロボウ、ドロボウは窃盗という犯罪だぞ。

犯罪を犯せば、お母さんに怒られるだけじゃない。警察に捕まるんだ。

二人ともこっちに来なさい。」

◎ それでは、ここで、皆さんに質問します。

のび男君は、すね太君に誘われて、万引きをしました。お店の人に見つかったとき、のび男君は、どういう思いだったでしょうか。

答えてくれる人は、手を上げて下さい。

(二〜三人の子どもから答えを聞く。手があがらないときは例を読む。)

例 ・ 断れば良かった。

・ おうちの人に怒られる。

・ おうちの人が悲しむ。

◎ そうですね。きっと、やらなければ良かったと思っていますね。でも、一度、悪いことをしてしまうと、それを消すことはできません。

たとえ、後から、お金を払っても、盗んだことは変わりません。

◎ この場面で、もう一つ、質問します。

万引きをした子どもを捕まえた、お店の人はどう思ったでしょう。

答えてくれる人は、手を上げて下さい。

(二〜三人の子どもから答えを聞く。手があがらないときは例をあげる。)

例 ・ なんて、悪い子ども達なんだ。

・ 迷惑だ。 ・ 困る。

◎ お店に並んでいる品物は、全部、お店の人が、お金を出して買ってきたものです。

それを万引きされて、お金がお店に入らず、つぶれてしまうお店もあります。

万引きは、お店の人の生活を奪ってしまう、とても悪いことなのです。

では、お話の続きを見てみましょう。



演出ノート

・ 大きな声で怒って
・ ナレーションはゆっくり

・ あわてた様子で

・ お願いする感じで

・ 大きな声で怒って

・ 間を置く。

・ 子ども達に語りかける。

のび男君のお父さんとお母さんが、警察署に行き、店長さんとお巡りさんに謝っています。

お巡りさんが言いました。

警察官 「おたくのお子さんは、友達のすね太君と一緒に、万引きという犯罪を犯したので、警察署に来てもらいました。



すね太君には、今、他の警察官が、厳しく話をしています。

のび男君は、「すね太君に誘われて、一緒に万引きをした。」と言っています。すが、どちらが言い出そうが、万引きをすれば、罪の重さは同じです。」お巡りさんの話を聞き、お父さんが言いました。

お父さん 「申し訳ありません。

家に帰って、どんな悪いことをしたのか、子どもに教えます。

「迷惑をおかけしました。」

店長さんが言いました。

店長 「『迷惑をおかけしました。』では済みませんよ。

私は、小学生でも許しませんよ。万引きは立派な犯罪です。

万引きを許していたら、店は潰れてしまうんですよ。」

お母さんが言いました。

お母さん 「ごめんなさい。

子どもが、万引きをしたのは、私達、親が、きちんと子どもに教えていなかったからです。私達、親の責任です。本当に、申し訳ありません。」

◎ あーあ。お母さんは、涙を流しながら謝っています。

このとき、お父さんやお母さんは、のび男君のことを、どのように思っているでしょうか。考えてみましょう。

どんな思いか、答えてくれる人は、手を上げて下さい。

(一)二三人の子どもから答えを聞く。手があがらないときは例をあげる。(

例 ・ 悪いことをしたと怒っている。

・ なんてことをしてくれたんだ。

・ 自分の子どもが悪いことをして悲しい。

◎ お父さんやお母さんは、子どもが悪いことをしたら、二度とやらないよう、注意したり、叱ったりします。それは、良い子に育って欲しいと願っていることなんです。そして、子どもの様子を見て「良い子だなあ。」と信じています。

だから、お話のように、自分の子どもが、警察に捕まるような、悪いことをしていたと知らされたときは、とても残念で悲しい思いをします。

おうちの人を悲しませるようなことをするのは止めましょう。

のび男君は、お父さんとお母さんが、自分のことを、お巡りさんや店長さんに怒られ、何度も、何度も頭を下げて謝っている姿を見て、悲しい気持ちになりました。

『何で、万引きをしてしまったんだろう。』と、やったことを悔やみました。

・ ナレーションはゆっくり

・ 厳しい口調で

・ 紳士的に

・ 大きな声で怒って

・ 申し訳ない気持ちで

問を置く。

子ども達に語りかける。

・ ナレーションはゆっくり

【場面⑥】

演出ノート

お巡りさんと、次の日も警察署に行く約束をしたのび男君は、お父さんとお母さんに連れられ、ようやく、家に帰ってきました。

お父さんは、のび男君に聞きました。

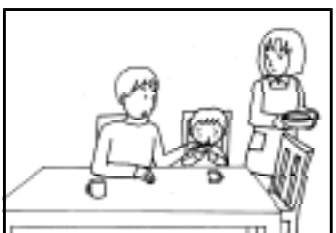
お父さん 「のび男。どうして、万引きをしたんだ。」

のび男 「どうしても、ドラカチヨコが食べたかったんだ。

だけど、お小遣いが足りなくて……」

それに、すね太君に誘われて……」

のび男君が口ごもっているとき、お父さんは、怒ったような、悲しいような顔をしながら、



・ナレーションはゆっくり

・厳しい口調で

・言い訳するように

お父さん 「いいか。これから、のび男に、大切なことを三つ話すぞ。まず、ひとり目だ。」

・諭すように

(このとき、文字画面 万引き ドロボウ せつとう はんだい
い の下こ

文字画面 じぶんのものとほかのひとのものをくべつする。 を貼る。)



お父さん 「それは、『自分の物と他の人の物を区別する。』ということだ。

のび男だって、自分が大切にしている物を他の人に盗られたら嫌だろ。」

・諭すように

◎ 皆さん、「区別」という意味は分かりますか。

区別とは、自分の物と他の人の物を分けて考えることです。

問を置く。

子ども達に語りかける。

・ クラスのお友達の筆箱に入っている鉛筆は、自分の物ありません。他の人、お友達の物です。

・ 落ちているお財布は、自分の物ではありません。他の人、落とした人の物です。

・ お母さんのお財布に入っているお金は、自分の物ではありません。他の人、お母さんの物です。

・ お店に並んでいる品物は、自分の物ではありません。他の人、お店の物です。

◎ 他の人の物を勝手に持ってきたら、それはドロボウになります。

◎ お父さんは、のび男君が、二度とドロボウしないために、「自分の物と他の人の物の

・ ボードを指しながら

区別すること」を教えたいですね。

大切なことの二つ目は何でしょう。見てみましょう。



(このとき、文字画面　じぶんのものとはかのひとのものをくべつする。の横に文字画面　じぶんでかんがえる。そして、ただしいことどうをとる。を貼る。)

お父さん　「のび男。二つ目は、『自分で考える。そして、正しい行動をとる。』と言いつつだ。

のび男は、すね太君に誘われたから万引きをしたと言ったが、それでは、自分で、やって良いことが、悪いことが、考えていないぞ。」

◎ それでは、皆さんに質問します。

お父さんは、のび男君に「自分で、やって良いことが、悪いことが、考えていないぞ。」と言っていますが、のび男君は、やって良いことが、悪いことが、しっかり考えたでしょうか。しっかりと考えるか。しっかりと考えるか。しっかりと考えるか。

- ・ のび男君は、しっかりと考えたと思う人。
- ・ しっかりと、考えなかったと思う人。

挙手を求める。
挙手を求める。

◎ ありがとうございます。お話の中で、

『のび男君は、心の中で、やらない方が良いと思いました。でも、「すね太君の誘いを断るのは悪いなあ。」と思っているうちに、すね太君の言うとおり、「一個くらいなら盗っても平気かなあ。」という気持ちになっってきました。』

と、ありました。
のび男君は、「やらない方が良い。」と少しだけ考えていますが、自分でしっかりと考えず、すね太君の考えに流されてしまったんですね。

◎ では、のび男君は、正しい行動をとったでしょうか。

- ・ 正しい行動をとったと思う人。
- ・ 正しい行動は、とっていないと思う人。

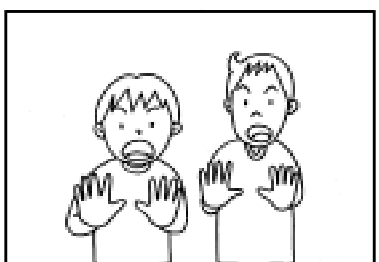
挙手を求める。
挙手を求める。

◎ そうですね。すね太君に誘われるまま、万引きをしているので、正しい行動はどれでもない。

◎ どんなときでも、やって良いことが、悪いことが、自分の頭でしっかりと考え、正しい行動を取りましょう。

・ ボードを指しながら

大切なことの三つ目は何でしょう。見てみましょう。



(このとき、文字画面　じぶんがかんがえる。そして、ただじこじこをやる。
の横に、文字画面　じこじこをまつ。　を貼る。)

お父さん 「三つ目は、『強い心を持つ。』とじこじこだ。」
のび男 「強い心。」
お父さん 「そっかよ。」

友達が悪いじこじこを誘ってました。じこじこのまま『強さ。』と思ったとわかって、
自分は、絶対に正しい行動をやる強さ。
そして、友達のためにも、『ためだよ。』と言って、悪いじこじこはめめめめめめ
強さ。

それが『強い心を持つじこじこ。』とじこじこなんだ。
『強い心』とじこじこは、『暗くても怖くはないよ。』とか、『けんかして強さ。』
とじこじこではないんだよ。
すね太君に注意がでまなからなくて、一緒にあって、悪いじこじこをこつこつ
のは、心が弱いからだ。」

のび男君は、「すね太君に注意ができません、万引きした自分は、弱虫だったんだ。」と、
悔しい気持ちになりました。

お父さんはのび男君に聞きました。

お父さん 「のび男、今、話した三つじこじこ、わかるか？」

- ・ 論ずように
- ・ 分からない様子で
- ・ 論ずように

- ・ ナレーションはゆっくり
- ・ 強い口調で

のび男 「うん。僕、三つを守りたいよ。」

のび男君は、正しい行動をとることも、強い心を持つことも、とても大切なことだと思い、真剣な気持ちで答えました。

お父さん 「そうか。じゃあ、この三つを守っていくよ」のび男とお父さんの約束だぞ。

お父さんは、お前のことを信じているからな。

お母さん 「お母さんま、のび男のよう、信じているからね。」



お母さんま、優しく言いました。

◎ それでは、皆さんに質問します。

のび男君が、お父さんと約束した三つ

- ・ 「自分の物と他の人の物を区別する。」
- ・ やって良いことが、悪いことが、「自分で考える。そして、正しい行動をとる。」
- ・ 「強い心を持つ。」

この約束、「自分もできる。」という人、手を上げて下さい。

大勢いますね。ありがとうございます。

とても大切なことです。この三つのこと、是非、守って下さいね。

のび男君は、お父さんとお母さん「信じて」といわね、うれしく思いました。そして、万引きしたことを心から反省しました。

のび男 「お父さん、お母さん。」

僕、ずっと、信じてもらえよう、絶対、約束は守るよ。

今日は、本当にごめんなさい。

僕、これから、すね太君を誘ってお店の人に謝ってくる。

お母さんは、のび男君の頭をなでながら言いました。

お母さん 「のび男、大事なことに気付いたわね。」

店長さんに心から謝って、反省している気持ち伝えてあげよう。

そうすれば、きっと、お店の人は、『もう、のび男達に万引きはねない。』

って安心するわ。お母さんま、一緒に行って謝りませうよ。」

お父さん 「お父さんま、一緒に行くよ。」

- ・ 元気に真剣な気持ちで
- ・ ナレーションはゆっくり

・ 紳士的に

・ 優しく

問を置く。

子ども達に語りかける。

・ ボードを指しながら

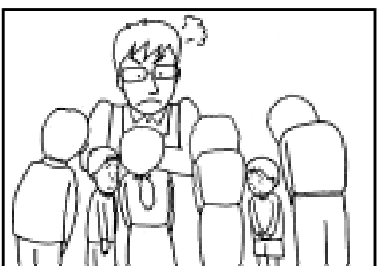
挙手を求める。

・ ナレーションはゆっくり

・ 素直な気持ちで

・ 優しく

・ 紳士的に



お店には、のび男君、すね太君、それぞれのお父さん、お母さんの六人で謝りに行きました。

そして、次の日、のび男君とすね太君は、学校の休み時間に「これからは、絶対に悪いことをするのはよそう。」と約束しました。

◎ 紙芝居を見て

「万引きという、お店の物をお金を払わず持ってきってしまうことは、とっても悪いことなんだ。」

ということが、よく分かりましたか。
分かった人。

挙手を求める。

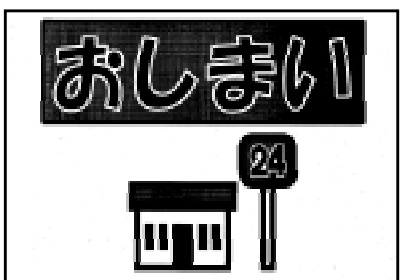
◎ それでは、そういう悪いことは、絶対にやらないと約束してくれる人。
ありがとうございます。

挙手を求める。

◎ それでは、今の約束は、小学校の高学年、中学生、高校生、そして大人になっても、しっかりと守って下さいね。

◎ そして、いつも、やって良いことが、悪いことをしっかり考え、正しい行動をとっていきましょう。

・ナレーションはゆっくり



◎ それでは、「これで」考えよう。やって良いこと 悪いこと「のお勉強をおしまいたしませう。

子ども達に語りかける。